

日本旧石器学会総会

次 第

書面表決

次 第

1. 委員会報告・審議
 - 1.1. 選挙管理委員会
 - 1.2. 総務委員会
 - 1.3. 会計委員会
 - 1.4. 会誌委員会
 - 1.5. ニュースレター委員会
 - 1.6. 渉外委員会
 - 1.7. 研究企画委員会
 - 1.8. データベース委員会
 - 1.9. 入会資格審査委員会
 - 1.10. 広報委員会
 - 1.11. 日本旧石器学会賞選考委員会
2. その他の報告と審議
 - 2.1. 2020年度役員と職務分担
 - 2.2. 2020年度総会の書面表決について
 - 2.3. 2020年度会費振込期限の猶予について
 - 2.4. 研究グループの運営費交付金の繰越制度の導入について

以上

1.1. 2020年度選挙結果報告

2020年3月1日から20日に郵送で行われた次期日本旧石器学会役員選挙の投票に関し、開票作業を4月12日に行いました。集計結果を下記の通り報告します。なお、今回の選挙当選者は、総会書面表決（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常総会は中止とし、書面表決とする）での承認を受けた後、次期役員となる予定です。

1. 場所：開票場所は宮城県仙台市青葉区内。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開票結果の確認、集計は、Web会議で行った。

2. 日時：2020年4月12日 10：00～12：00

3. 開票作業：伊藤 健（選挙管理委員長）、西井幸雄（選挙管理委員）、市田直一郎（選挙管理委員）、佐野勝宏（総務委員長）。

4. 得票数

- 1) 郵送投票枚数 103 枚
- 2) 郵送有効投票枚数 103 枚
- 3) 投票数 983 票
- 4) 有効投票数 983 票

5. 当選者

7地区の上位得票者1名（○印）と、それ以外の得票数上位15名が当選者。

以上の当選者の他、得票数が1票から2票の方が27名いました。その合計は、29票です。

氏名	投票数	地域	順位
赤井文人 あかいふみと	38	北海道	9
出穂 雅実 いずほまさみ	42	関東	6
沖野 実 おきのみのる	27	中四国	○
尾田識好 おだのりよし	56	関東	4
越知睦和 おちよしかず	38	九州・沖縄	9
小野章太郎 おのしょうたろう	39	東北	○
加藤 学 かとうまなぶ	48	中部	5
門脇誠二 かどわきせいじ	40	中部	7
国武貞克 くにたけさだかつ	57	近畿	2
熊谷亮介 くまがいらょうすけ	19	東北	15
小原俊行 こはらとしゆき	27	関東	11
佐藤宏之 さとうひろゆき	69	関東	○
沢田 敦 さわだあつし	53	中部	○
下岡順直 したおかよりなお	27	関東	11
諏訪間順 すわまじゅん	67	関東	1
高倉 純 たかくらじゅん	41	北海道	○
高屋敷飛鳥 たかやしきあすか	39	関東	8
平澤 悠 ひらさわゆう	26	中四国	13
森先一貴 もりさきかずき	74	近畿	○
山崎真治 やまざきしんじ	45	九州・沖縄	○
山田和史 やまだかずふみ	25	関東	14
渡辺丈彦 わたなべたけひこ	57	関東	2

1.2. 総務委員会

1. 2019年度の活動報告

2019年度の総務委員会の活動は以下の通りである。

- (1) 会員情報の管理
 - ・2019年度新入会員は4名、退会者は6名で（物故者1名および会費滞納による会員権利停止処分2名を含む）、2020年4月1日現在での会員数は229名である。
- (2) 役員会開催のための意見交換・連絡調整・資料の作成
 - ・2020年5月23日（土） ZoomによるWeb会議
- (3) 総会・研究発表・シンポジウム開催に関する意見交換・連絡調整・資料の作成
 - ・新型コロナウイルス感染拡大を受け、2020年度総会・研究発表・シンポジウムの開催について役員で審議し延期を決定した。
 - ・2020年度総会の書面表決について役員会で審議。
- (4) 会務に関する連絡・調整、各委員会間の連絡・調整
- (5) 会誌（「旧石器研究」第16号）、ニュースレター（第42・43・44号）、各種学会連絡文書の発送
 - ・会誌発送：2020年5月末予定
 - ・ニュースレター：2019年9月第42号、2019年12月第43号、2020年5月第44号
 - ・それ以外に適宜要望に応じて発送を行なった。
- (6) 日本考古学協会総会の中止により、図書交換会におけるシンポジウム予稿集及び会誌「旧石器研究」の頒布は中止となった。
- (7) 研究グループ支援制度に関する事務
 - ・新規研究グループの申請は無し
 - ・研究グループ継続申請への対応
 - 「郡家今城遺跡の再整理」（研究代表者 鈴木忠司）
 - 「旧石器基礎研究・次世代育成研究グループ」（研究代表者 堤 隆）
 - ・両研究グループの2019年度活動報告をニュースレター第44号に掲載
 - ・運営費交付金の繰越制度の導入について役員会で審議
- (8) 日本旧石器学会賞
 - ・2019年度総会において2018年度の学会賞・奨励賞の授賞式を行った。
 - ・2019年度の学会賞、論文賞選考に係る事務を行った。
- (9) 第9期役員選挙
 - ・選挙告示：ニュースレター第43号（2019年12月）
 - ・立候補・推薦の受付：2020年2月15日締切
 - ・投票期間：2020年3月8日～3月27日
 - ・開票：2020年4月12日
 - ・結果発表：2020年5月（ニュースレター第44号）

- (10) メーリングリストに関すること
- ・郵送費の削減や会員への連絡の事務作業量の軽減のため、メーリングリストを運用している。現在の登録人数は99名である。
- (11) 共催・資料提供等について
- ・中・四国旧石器文化談話会と「旧石器遺跡マッピングパーティー」を共催（2019年12月7日、徳島県埋蔵文化財総合センター「レキシルとくしま」）。
 - ・国立国会図書館収集書誌部へ『旧石器研究』第15号の提供。

2. 2020年度の活動計画

以下の項目に取り組み、それ以外は経常的な会務に取り組む。

- (1) 総会・研究発表・シンポジウムの準備・連絡調整
- ・2020年度 研究発表・シンポジウムの開催・中止について協議
 - ・2021年度の総会・研究発表・シンポジウムは、2021年6月を予定。会場は未定。
- (2) 日本旧石器学会賞の選考
- 工程 2020年8月 ニュースレター第45号で「学会賞推薦」の告知
- 2021年3月頃 学会賞選考委員会を開催し、推薦をもとに受賞者候補を決定
- 2021年5月 日本考古学協会総会時の役員会で決定
- 2021年6月 日本旧石器学会総会にて授賞式
- (3) 研究グループ
- 2020年度継続研究グループに、運営費交付金を交付し、活動を支援する。

以上

(総務委員会：佐野勝宏、渡辺丈彦、岩瀬 彬)

1.3. 会計委員会

1 2019年度の活動実績について

- (1) 役員会，総会・研究発表・シンポジウム，日本考古学協会図書交換会時
 - ・ 会費・学会刊行物頒布代金の徴収（総務委員会と協同）及び収入の学会口座への預入
 - ・ 日本旧石器学会賞副賞，各委員会立替金，仮払金等の現金支出
- (2) 通年
 - ・ 会費納入状況管理，会費納入・住所変更等の総務委員会への報告，刊行物頒布等収入の管理
 - ・ シンポジウム登壇者，普及講演会講師及び会議・普及講演会・データベースワークショップに出席した役員の交通費補助額の算定・支払
 - ・ 刊行物（研究発表等予稿集，会誌15号，ニューズレター41・42・43号）印刷・発送費支払
 - ・ HP管理・メーリングリスト構築運用委託費の支払
 - ・ A P A 日本大会経費積立金の口座管理（積立金入金・支払等）
 - ・ 役員選挙実施に伴う経費及び研究グループ運営経費の支出。
 - ・ その他，学会出納口座の管理

2 2019年度決算について（表1・2参照）

(1) 一般会計

収入	予算額を95,600円下回った。主な原因は，長期滞納者の多くが2018年度までに滞納分を完済したことによる会費収入減（2018年度251人・年分⇒2019年度220人・年分）。
支出	通信運搬費及び雑費を除く費目が予算枠内で執行され，予算を133,776円下回った。 【通信運搬費支出増の原因】事務局－図書販売会場・発送委託先間の刊行物等送料の増 【雑費支出増の原因】新型コロナウイルス感染症対策のため，次年度シンポ打合せ会を中止したことに伴い，出席予定の役員の航空券キャンセル料を補助。
総括	64,176円の黒字が発生し，2020年度への繰越金は1,986,992円となった。

(2) 特別会計

所定の150,000円を積み立て，630,000円を2020年度に繰り越した。

(3) 会計監査

2019年度会計が適正に執行されている旨，会計監査委員の確認を受けた。
（2020年5月28日 藤野次史委員，2020年5月29日 小嶋善邦委員）

3 2020年度活動計画及び予算（案）について（表3・4参照）

(1) 一般会計

前年度執行額をベースに予算編成及び執行を行う。特記事項は次の通り。

- ◎ 日本考古学協会図書交換会，役員会，総会・研究発表・シンポジウム，普及講演会，ワークショップ等の開催に係る経費については，新型コロナウイルス感染防止の観点から執行のあり方を協議しつつ，機動的かつ適正な執行に努める。
- ◎ 会員に対する刊行物の配付経費等，その他の経費についても，新型コロナウイルス感染防止の観点からやむを得ない場合には費目間流用などを行って柔軟かつ適正な執行に努める。
 - ・ 研究グループ運営経費を増額。（1グループ2019年度15,000円⇒2020年度30,000円）
 - ・ 日本旧石器学会賞関連経費を増額。（賞の数の増に伴う賞状製作費の増）
 - ・ 物価上昇などの経営圧迫要因があるが，経営安定と活動充実の両立を図る。

(2) 特別会計

- 所定の150,000円を積み立て，780,000円を2021年度に繰り越す。

表1 日本旧石器学会 2019 年度一般会計決算(案) (単位:円)

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会費収入				
会費収入	1,398,000	1,292,000	△ 106,000	延べ 220 人・年分【内訳】18 年度以前 26 人,19 年度 185 人,20 年度以降 9 人 (納入額不足者も含む)
その他の収入				
会誌頒布代金	252,000	228,800	△ 23,200	最新刊 (15 号) 41 冊、バックナンバー 26 冊
シンポジウム予稿集頒布代金	234,000	234,600	600	最新刊 117 冊、バックナンバー 61 冊
その他収入	0	33,000	33,000	懇親会余剰金等
前期繰越収支差額	1,922,816	1,922,816	0	
収入 計	3,806,816	3,711,216	△ 95,600	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会議費・会場設営費	139,000	127,625	△ 11,375	日本考古学協会図書交換会卓代, 総会時役員・シンポ登壇者昼食代, 会場使用料
旅費交通費	167,000	166,500	△ 500	学会賞選考委員, シンポ登壇者, 普及講演会講師, データーベースワークショップ出席役員, 普及講演会講師旅費補助
通信運搬費	139,000	184,661	45,661	会誌・ニュースレター・役員選挙公報・投票用紙送料等
消耗品費	3,000	1,350	△ 1,650	事務用品等
印刷製本費	1,093,000	926,510	△ 166,490	研究発表・シンポ予稿集, 会誌, ニュースレター 3 件
諸謝金	0	0	0	
委託費	66,000	66,000	0	HP 管理・メーリングリスト構築運用
次回 APA 日本大会経費積立	150,000	150,000	0	
研究グループ運営経費	30,000	30,000	0	
シンポジウム開催準備費	10,000	0	△ 10,000	
日本旧石器学会賞関連経費	34,000	33,559	△ 441	賞状製作, 副賞等
雑費	27,000	38,019	11,019	郵便振替・振込手数料等
予備費	1,948,816	1,986,992	38,176	
支出 計	3,806,816	3,711,216	△ 95,600	

※単年度収支

費 目	予算額	決算額	増 減
前期繰越金を除く収入	1,884,000	1,788,400	△ 95,600
予備費を除く支出	1,858,000	1,724,224	△ 133,776
収支差額	26,000	64,176	

表2 特別会計 (APA 日本大会開催経費積立) 単位:円

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
積立金収入	150,000	150,000	0	次回 APA 日本大会経費積立金
その他の収入	0	0	0	利子
前期繰越収支差額	480,000	480,000	0	
収入 計 (①)	630,000	630,000	0	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
APA 日本大会経費	0	0	0	
その他の支出	0	0	0	
予備費	0	0	0	
支出 計 (②)	0	0	0	
次期繰越金 (①-②)	630,000	630,000	0	

表3 日本旧石器学会 2020年度一般会計予算(案) (単位:円)※太字・下線が2019年度との変更点

収 入				
費 目	2020年度 予算(案)	【参考】2019 年度決算(案)	【参考】2019 年度予算	摘 要
会費収入				
会費収入	1,374,000	1,292,000	1,398,000	4月1日時点会員数229人×6,000円
その他の収入				
会誌頒布代金	228,000	228,800	252,000	
シンポジウム予稿集頒布代金	234,000	234,600	234,000	
その他収入	0	33,000	0	
前期繰越収支差額	1,986,992	1,922,816	1,922,816	
収入 計	3,822,992	3,711,216	3,806,816	
支 出				
会議費・会場設営費	95,000	127,625	139,000	日本考古学協会図書交換会卓代、総会時役員等昼食代、総会～シンポ会場使用料・会場設営補助アルバイト代、DBWS会場使用料・WiFiルーターレンタル料、普及講演会会場使用料
旅費交通費	177,000	166,500	167,000	学会賞選考委員・シンポ発表者・DBWS開催委員・普及講演会講師の交通費補助
通信運搬費	121,000	184,661	139,000	会誌・NL送料等
消耗品費	3,000	1,350	3,000	事務用品等
印刷製本費	1,116,000	926,510	1,093,000	会誌、研究発表・シンポ予稿集、NL、普及講演会広報ポスター・チラシ等
諸謝金	0	0	0	
委託費	66,000	66,000	66,000	HP管理・メーリングリスト構築運用
次回APA日本大会経費積立	150,000	150,000	150,000	
研究グループ運営経費	60,000	30,000	30,000	30,000円×2件
次年度シンポジウム開催準備費	—	0	10,000	所用経費を会議費・会場設営費、旅費交通費に計上
日本旧石器学会賞関連経費	36,000	33,559	34,000	賞状製作(3賞)、副賞
雑費	27,000	38,019	27,000	郵便振替・銀行振込手数料等
予備費	1,971,992	1,986,992	1,948,816	
支出 計	3,822,992	3,711,216	3,806,816	

(備考) 年度間の繰越金を除く単年度収支

	2020年度 予算(案)	【参考】2019 年度決算(案)	【参考】2019 年度予算
前期繰越金を除く収入	1,836,000	1,788,400	1,884,000
予備費を除く支出	1,851,000	1,724,224	1,858,000
収支差額	△15,000	64,176	26,000

表4 日本旧石器学会 2020年度特別会計 (APA日本大会開催経費積立) 予算(案) (単位:円)

収 入				
費 目	2020年度 予算(案)	【参考】2019 年度決算(案)	【参考】2019 年度予算	摘 要
積立金収入	150,000	150,000	150,000	次回APA日本大会経費積立金
その他の収入	0	0	0	利子
前期繰越収支差額	630,000	480,000	480,000	
収入 計 (①)	780,000	630,000	630,000	
支 出				
費 目	2020年度 予算(案)	【参考】2019 年度決算(案)	【参考】2019 年度予算	摘 要
APA日本大会経費	0	0	0	
その他の支出	0	0	0	
予備費	0	0	0	
支出 計 (②)	0	0	0	
次期繰越金 (①-②)	780,000	630,000	630,000	

会計監査報告

本日、本学会の2019年度会計監査を実施し、会計帳簿・帳票類、領収証等を
検査したところ、適正に処理されていることを確認しましたので、ここに報告
いたします。

2020年5月28日

日本旧石器学会会計監査委員


藤野 次史 

会計監査報告

本日、本学会の2019年度会計監査を実施し、会計帳簿・帳票類、領収証等を
検査したところ、適正に処理されていることを確認しましたので、ここに報告い
たします。

2020年5月29日

日本旧石器学会会計監査委員

小嶋善邦 

1.4. 会誌委員会

1. 2019年度活動の概要

2019年度の会誌委員会の目標は、会誌が充実した内容となるよう責任ある編集体制の確保に努めるべく、次の目標・課題を設定した。(1) 研究企画委員会と協力しつつ学術的水準を維持し、意欲的で充実した誌面づくりに努める。そのため、各地域の会員からの投稿を募り、多様な論考を集約する。(2) 編集工程を改善し、今年同様2020年の日本考古学協会までに会誌を刊行する。(3) 旧石器研究に関する最新情報や関連分野の研究事情について、投稿数を増やすべく広く会員に周知し協力を求める。また、これまでに投稿実績のない執筆者からの投稿も積極的に呼びかける。

(1) について、研究企画委員会等の委員会の協力を仰ぎ、第17回シンポジウムの発表者の投稿他、地域や分野も多彩な内容の論考を掲載できた。(2) の会誌編集について、頒布予定期日を日本考古学協会図書交換会(新型コロナウイルス感染防止により中止)の日程に合わせ刊行できた。(3) についても会員からの情報提供をもとに、新規会員からの投稿を得られた。

2. 会誌『旧石器研究』第16号(2020年5月22日刊行)の内容

第16号は、総説3、原著論文4、書評1、研究発表・シンポジウム報告1、シンポジウムの記録1、会則・規定等からなる。総頁数は約152頁で、本誌の構成は以下のとおりである。

『旧石器研究』第16号

総説

- 中尾 央 「日本考古学の理論的・哲学的基礎」
五十嵐ジャンヌ 「ヨーロッパ後期旧石器時代洞窟壁画の解釈」
国武貞克 「タジキスタン中期旧石器時代研究の現状と展望」

論文

- 森先一貴 他 「石の本再訪」
国武貞克・タイマガンベトフ・ジャケン
「カザフスタン南部における後期旧石器時代前期小石刃生産技術の様相」
山崎 健 他 「東京都前田耕地遺跡から出土した動物遺存体の再検討」
古田 幹 「礫群構成礫の再使用に関する検討」

書評

- 小野 昭 「A. K. コノパツキー著『アレクセイ・P・オクラドニコフ 過去を探る偉大な探検家』第1巻」

研究発表・シンポジウム報告

- 高屋敷飛鳥 「日本旧石器学会 第17回研究発表・シンポジウム『旧石器研究の理論と方法論の新展開』」

シンポジウムの記録

第17回大会実行委員会 「日本旧石器学会 第17回シンポジウム『旧石器研究の理論と方法論の新展開』: 討論の記録」

会則・規定、役員名簿、会員名簿、投稿規定・執筆要項

3. 2019年度活動の課題

2019年度の会誌編集作業について、今号は投稿原稿の集約が比較的順調であった。ただし、第17回研究発表・シンポジウムの発表者・登壇者からの寄稿は低調であった。シンポジウム登壇者に対しては、断続的にメールによる寄稿の依頼を実施したが、結果的には2名からの寄稿が得られたのみであった。投稿数増加のためにはシンポジウムだけでなく、研究発表、ポスターセッションの発表者にも投稿を呼びかけることも有効だった可能性がある。会員の自発的で積極的な投稿を促進する体制づくりや研究企画委員会との連絡・調整をいっそう綿密に行い、会誌の内容が多様でバランスのよい構成となるように努める必要がある。

4. 2020 年度活動計画案

会誌第 17 号が充実した内容となるよう責任ある編集体制を確保するため、昨年度に引き続き以下の目標を定める。

(1) 研究企画委員会等と協力しつつ学術的水準を維持し、意欲的で充実した誌面づくりに努める。そのため、各地域の会員からの投稿を募り、多様な論考を集約する。(2) 今年同様 2021 年の日本考古学協会までに会誌を刊行する。(3) 旧石器研究に関する最新情報や関連分野の研究事情について、投稿数を増やすべく広く会員に周知し協力を求める。また、これまでに投稿実績のない執筆者からの投稿も積極的に呼びかける。

1.5. ニュースレター委員会

2019年度活動報告

2019年度はニュースレター第42号、第43号、第44号の編集・発行を行った。主な内容は以下のとおり。

【第42号】2019年9月7日発行（10頁）

- ・日本旧石器学会第17回大会の開催（報告）
- ・2018年度委員会報告
- ・2019年度活動計画
- ・2018年度日本旧石器学会賞受賞者
- ・2019年度学会賞の推薦について
- ・2019年度日本旧石器学会役員会（2019年4月～2020年3月）
- ・日本旧石器学会賞規程の改訂について
- ・関連学会情報
- ・お知らせ

【第43号】2019年12月28日発行（8頁）

- ・男鹿半島の石材原産地を求めて
- ・2018年度日本旧石器学会賞受賞者報告
- ・2019年度第1回普及講演会報告
- ・役員選挙について
- ・2019年度学会賞の推薦について
- ・2019年度 総会・研究発表・ポスターセッション発表の募集
- ・アジア旧石器協会（APA）2020年中国大会のお知らせ
- ・関連学会情報
- ・お知らせ

【第44号】2020年5月1日発行（8頁）

- ・3万年前の航海 徹底再現プロジェクト（2016-2019）
- ・北京原人第1頭骨発見90周年国際古人類シンポジウム参加記
- ・日本旧石器学会第18回総会・研究発表・シンポジウム延期のお知らせ
- ・日本旧石器学会役員選挙結果のお知らせ
- ・四国旧石器遺跡マッピングパーティーの開催
- ・日本旧石器学会研究グループ2019年度活動報告
- ・お知らせ

2020 年度活動計画

2020 年度はニューズレター第 45 号、第 46 号、第 47 号の編集・発行を行う。掲載を予定している主な内容は以下のとおり。

【第 45 号】2020 年 8 月発行予定

- ・ 寄稿記事
- ・ 2019 年度委員会報告
- ・ 2020 年度活動計画
- ・ 2020 年度日本旧石器学会役員会（2020 年 4 月～2021 年 3 月）
- ・ 2019 年度日本旧石器学会賞受賞者の発表
- ・ 2020 年度学会賞の推薦募集
- ・ 『旧石器研究』の原稿募集
- ・ 関連学会・出版情報
- ・ お知らせ

【第 46 号】2020 年 12 月発行予定

- ・ 寄稿記事
- ・ 2019 年度日本旧石器学会賞受賞者報告
- ・ 2021 年度大会・研究発表・ポスターセッション発表の募集
- ・ 普及講演会の案内
- ・ 関連学会・出版情報
- ・ お知らせ

【第 47 号】2021 年 4 月発行予定

- ・ 寄稿記事
- ・ 2021 年度日本旧石器学会総会・研究発表・シンポジウムの案内
- ・ 普及講演会報告
- ・ 研究グループ活動報告
- ・ 関連学会・出版情報
- ・ お知らせ

2020年6月8日
日本旧石器学会総会資料

1.6. 渉外委員会

2019年度活動報告

1. アジア旧石器協会（APA）に関して
 - ・ホームページ、ニュースレターを通じて、APA2020 中国大会のファーストサーキュラーの告知を行った。
 - ・APA 事務局（中国）に日本からの執行委員（阿子島香、出穂雅実、加藤真二）を通知した。
 - ・APA 参加国拡大問題については、今のところ進展はないとのこと。
2. 国外のシンポジウム等の情報提供
 - ・上記 APA 中国大会に加え、北京原人第 1 頭骨発見 90 周年国際古人類シンポジウム(2019 年 12 月 4 日－9 日) の情報提供をおこなった。
3. APA 2016（日本大会）に関わる雑誌について：
 - ・一般セッション特集号の Quaternary International 535 が刊行される(2020 年 1 月 10 日)。

2020年度活動方針

1. アジア旧石器協会（APA）に関して
 - ・APA2020 年中国大会（2020 年 8 月 22 日～28 日）は、新型コロナウイルス感染の拡大により、1 年間延期される。
 - ・会長（王幼平 北京大学教授）の任期も来年に開催される予定の APA 中国大会まで延長する予定。（中国側に延長措置支持を通知済み。2020 年 5 月 23 日）
2. 海外でのシンポジウム等の情報提供

1.7. 研究企画委員会

1. 2019年度活動報告

(1) 第17回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの開催

日程：2019年6月29日（土）～30日（日）

会場：大正大学巣鴨キャンパス

プログラム：[資料1](#)

- シンポジウム「旧石器研究の理論と方法論の新展開」発表7本
- 一般研究発表：口頭9本（1本15分）、ポスターセッション10本
- 『旧石器研究』第16号に成果論文を掲載予定

2. 2020年度活動予定

(1) 第18回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの開催

日程：2020年6月13日（土）～14日（日）

会場：札幌国際大学キャンパス

プログラム：[資料2](#)

- シンポジウム「北海道の旧石器時代と集団」発表5本（趣旨説明除く）
- 一般研究発表：口頭6本（1本15分）、ポスターセッション7本

(2) 第18回日本旧石器学会の延期にともなう措置

新型コロナウイルス感染症の拡散状況を鑑み、2020年度の研究発表・シンポジウムを延期（4/7に役員へ通知）。今年度は実質中止し、第18回大会を次年度へ繰り越す。

以下は、第18回大会の繰り越しに関わる、[申し送り事項](#)である。

- 2021年度へ延期する研究大会・シンポジウムを、いつどこで実施するかは、次期役員を中心に調整が必要。
- 北海道開催であれば、シンポジウムのテーマと発表者はそのまま持ち越す。開催予定会場である札幌国際大学における対応案は、[資料3](#)を参照。
- 一般研究発表は、エントリーした発表者と題目を持ち越す。研究企画委員は、2021年度へ持ち越した発表者に対して、継続エントリーの希望とタイトル変更の有無について確認する。

3. その他

(1) 第17回シンポジウム予稿集の校正不備について

第17回日本旧石器学会大会終了後、シンポジウム発表者より、校正の際に修正指示したはずの事項が予稿集では直されていないことについて、指摘があった。研究企画委員では、予稿集編集不備とその原因分析を作成し、当該資料を研究企画委員長（中沢）から該当者へお送りすることをご了解をいただいた。正誤表についても作成し、事務局へご対応をお願いした。

予稿集編集の不備に関する再発防止策については、今後、学会で引き継いでいただきたい。

(2) シンポジウム発表者の『旧石器研究』への投稿

昨年、シンポジウム発表者から会誌『旧石器研究』への投稿が少ない問題を指摘した。その後、2019年のシンポジウム発表者へは、事前に会誌への投稿をお願いし、2名の辞退者を除く発表者から投稿の意志を確認した。シンポジウム講演者からは、パネルディスカッションの記録依頼があった。それに対応し、司会担当の研究企画委員（三好委員）がテープ起こしを実施し、次号の『旧石器研究』へ掲載予定である。研究企画委員と会誌編集員の連携のもと、今後もシンポジウム成果を発信していく予定である。

(3) 今後の学会実施について

新型コロナウイルス感染症の流行が数年間は終息しない、もしくは同様な未知の感染症の流行が始まることなどの不測の事態が生じることも非現実的ではない。研究大会の実施を学会の存続要件のひとつと考えるならば、年1回の研究発表・シンポジウムを再び中止・延期せざるをえない事態は避けたい。オンラインによる研究大会・シンポジウム開催に関する協議、それを支える学会HP機能やメーリングリストの拡充活用も急務と思われる。研究企画委員会とその他の委員との連携が必要である。

2020年度研究企画委員会

中沢祐一、海部陽介、三好元樹、門脇誠二、尾田識好

資料 1

2019 年度 日本旧石器学会 第 17 回総会・研究発表・シンポジウムについて

6 月 29 日 (土)

会場：大正大学巣鴨キャンパス (東京都豊島区西巣鴨 3-20-1)

総会・研究発表会場：5 号館 5 階 551 教室

ポスター会場：5 号館 5 階 553 教室

総会：13:30-14:30 ※12:30 受付開始

一般研究発表：14:45-17:30

14:45-15:00 諸星良一「星野遺跡群の調査—チャート原産地遺跡の実存—」

15:00-15:15 渡辺 玲・桐原弘亙・中尾綾那・榎本美里・新里亮人・海部陽介・
佐野勝宏「徳之島アマンガスク遺跡の発掘調査成果」

15:15-15:30 鈴木忠司・徳永 裕「礫群から何が見えるか」

15:30-15:45 市田直一郎「本州最北部における旧石器石材の分布と利用—尻労
安部洞窟出土台形石器の分析を中心に—」

15:45-16:00 野口 淳・千葉 史・横山 真・神田和彦・渡邊 玲・佐藤祐輔・
小菅将夫「後期旧石器時代前半期尖頭形石器の形態測定学—東
北地方秋田県域の事例分析—」

◆16:00-16:30 休憩

16:30-16:45 門脇誠二「レヴァント地方の中部旧石器後期～上部旧石器前期に
おける石器刃部獲得効率の変化とその行動的意義の考察」

16:45-17:00 加藤真二「中国山東省の中期旧石器文化」

17:00-17:15 橋詰 潤・シェフコムード I. Ya.・内田和典「ロシア連邦アム
ール川下流域オシノヴァヤレーチカ 10 遺跡 2015 年度調査の概
要」

17:15-17:30 平澤 悠「アラスカ州スワンポイント遺跡における彫器製作技術
と石材利用」

ポスター発表

P 1 中沢祐一・佐野恭平・直江康雄・坂本尚史「母岩別資料を用いた黒曜石水和層法の知
見：旧白滝 3 遺跡の例」

P 2 高倉 純「硬質頁岩における微視的製作痕跡」

P 3 夏木大吾「タチカルシュナイ遺跡 M-I 地点における縄文時代草創期文化の石器製作
技術」

- P 4 青木要祐・熊谷 誠「北海道タチカルシュナイ第Ⅱ遺跡出土石器の再検討」
P 5 熊谷亮介・梅川隆寛・小野章太郎・鹿又喜隆・佐久間光平「宮城県薬菜山麓の旧石器時代遺跡群」
P 6 高屋敷飛鳥「相模野台地における砂川石器群の技術構造と居住形態」
P 7 光石鳴巳・白石 純・森先一貴「兵庫県におけるサヌカイト利用の様相（予察）」
P 8 千葉 史・野口 淳・横山 真・神田和彦・渡邊 玲・佐藤祐輔・小菅将夫「石器の形態測定学的検討のための三次元データ解析法について」
P 9 国武貞克「中央アジア西部における EUP 石器群の構造」
P 10 内藤裕一・門脇誠二「ガゼルの歯の炭素・酸素同位体比からみたヨルダン・Tor Hamar 遺跡における旧石器時代人の狩猟活動」

懇親会（18：00～20：00）

6月30日（日）シンポジウム当日のプログラム

- 9：00－9：10 趣旨説明（研究企画委員）
9：10－9：35 安斎正人「考古資料から歴史構築へ」
9：35－10：00 鈴木美保「刃部磨製石斧の起源-伝播か収斂進化か？」
10：00－10：25 五十嵐彰「旧石器研究における接合の方法論的意義」
◆10：25～10：40 休憩
10：40－11：05 洪 恵媛「旧石器研究をめぐる理論動向の比較：韓国と日本」
11：05－11：30 五十嵐ジャンヌ「ヨーロッパ旧石器時代洞窟壁画の解釈」
11：30－11：55 中尾 央「文化進化研究の展開を踏まえた旧石器研究の可能性」
11：55－12：20 溝口孝司「ポストプロセスからみた旧石器時代研究への提言」
◆12：20～13：50 昼休み・ポスターセッション
13：50～15：00
パネルディスカッション（報告者全員が登壇）、司会（研究企画委員）
15：00－15：15 講評 阿子島香

資料 2

2020 年度日本旧石器学会総会・研究大会スケジュール（案）

6 月 13 日（土）

12:30 受付開始

13:30-14:30 総会

一般研究発表 14:45-17:30

14:45-15:00 一般発表 1

15:00-15:15 一般発表 2

15:15-15:30 一般発表 3

<休憩 15:30-15:45>

15:45-16:30 **ポスターセッション・コアタイム**

16:30-16:45 一般発表 4

16:45-17:00 一般発表 5

17:15-17:30 一般発表 6

<懇親会> 19:00~20:40 サッポロビール園（東区北 7 条東 9 丁目 2-10）

60 名で予約（※確定後、変更）。ビヤホール。4200 円（税込み）。

6 月 14 日（日）

シンポジウム 9:00-15:00 「北海道の旧石器時代と集団」

9:00-9:15 シンポジウム趣旨説明（研究企画委員会）

9:15-9:40 鈴木 仁「氷期最盛期の日本産小型哺乳類の集団動態を考える」

9:40-10:05 山田 哲「日本列島における細石刃石器群の成立－稜柱系細石刃石器群の生成と特性－」

10:05-10:30 高倉 純 「北海道における細石刃技術の出現と人類行動の変容」

<休憩 10:30-10:45>

10:45-11:10 赤井文人 「北海道後期細石刃石器群の遺跡間比較」

11:10-11:35 夏木大吾 「北海道における更新世・完新世移行期の人類社会」

11:35-12:20 **資料見学**（吉崎昌一コレクション、遠軽町所蔵白滝遺跡群資料など）

<昼食休憩 12:20-13:20>

13:20-14:35 パネルディスカッション

14:35~14:50 コメント

15:00 閉会

1.8. データベース委員会

2019 年度活動報告

(1) 更新・改訂作業

①基本方針

- ・「日本列島の旧石器時代遺跡」データベースを“最新のデータにもとづき、より使いやすく、維持管理の容易なデータベースに!”
- ・2010年版以降の新データと欠落データの追加・補足、収録情報の確認、とくに位置情報の高精度化を進める。
- ・文献書誌情報の外部データベースとの紐づけ（奈文研「総覧」ほか）。

②「旧石器遺跡マッピングパーティー」更新作業ハンズオン・ワークショップ（WS）

- ・2019年8月9日：東京都埋蔵文化財センター（有志による「勉強会」形式での実施）。
- ・2019年12月7日：徳島県埋蔵文化財総合センター「レキシルとくしま」（(公財) 徳島県埋蔵文化財センター、中・四国旧石器文化談話会と共催；ニュースレター第44号に開催記録を掲載）。

(2) 更新・改訂版の公開準備

- ・2010年版公開ページを一部修正し、データベース利用規約のページを新設（調整中）。
- ・北海道、秋田県、宮城県、奈良県、岡山県が更新・改訂を完了。これらの公開に向けて調整中。

2020 年度活動計画

(1) 改訂・更新作業の継続

- ・基本はウェブ上での協働（共同）作業で進める（できる人が、できる時に!）。
- ・更新作業ワークショップの開催を通じて協力者を確保し作業方法を周知。開催地域の候補として北関東（群馬県）、北陸（新潟県）などがあげられる。
- ・研究上価値のある付加情報の整備とより効果的なDB連携について検討する。引き続き奈良文化財研究所との協働を予定。

(2) 改訂・更新版の公開

- ・作業が完了した部分から都道府県単位での公開を予定。
- ・外部サービスの利用・連携をはかり、更新・改訂完了分からデータソースを差し替え。

(3) 課題

- ・個人および地域研究会等の協力を得てWSを開催してきたが、その後の更新作業の進捗に必ずしもつながっていない現状がある。依然としてほぼ手つかずの地域も残る。
- ・WSの開催とともに、WS開催後のサポートが課題。広く協力者を得ての体制づくりが必要。

データベース委員会（2019年度）

光石鳴巳、馬龍亮道、小原俊行、小野章太郎、野口 淳、氏家敏之、国武貞克

1.9. 入会資格審査委員会

2019年度活動報告

入会申込があった、

會田 容弘 (アイタ ヨシヒロ 2019年5月31日入会申込、6月10日資格審査結果報告)
田中 良 (タナカ リョウ 2019年5月31日入会申込、6月10日資格審査結果報告)
古田 幹 (フルタ ミキオ 2020年1月27日入会申込、1月29日資格審査結果報告)
熊谷 誠 (クマガイ マコト 2020年3月6日入会申込、3月10日資格審査結果報告)

今年から4月1日から3月31日の年度期間中の資格審査状況を報告する。

2019年度は、以上4名の入会申込者の資格審査を加藤、諏訪間順で厳正に行い、会長に結果を報告した。

2020年度活動計画

入会申込者の資格審査を迅速に行う。

会員各位においては、引き続き、積極的に入会希望者の掘り起こしと勧誘を行っていただきたい。

1.10. 広報委員会

日本旧石器学会や旧石器時代の周知・PR、普及講演会の実施、HPの更新、関連学会情報や魅力あるコンテンツの作成を柱に、以下のとおり活動を行った。

■2019年度活動報告

1. 普及講演会を開催し、日本旧石器学会や旧石器時代の周知・PRに努めた。

①普及講演会

- 日時：2019年8月3日（土）13：30～15：00
- 場所：東京都立埋蔵文化財調査センター会議室
- 内容：講演 阿子島 香 会長 「アメリカとフランスの旧石器研究を比較して考える」
- 主催：日本旧石器学会
- 共催：東京都埋蔵文化財センター

2. HPでは、旧石器学会、講演・共催事業・関連学会等の情報提供をはじめ、コンテンツの一部を追加した。

①ホームページ更新

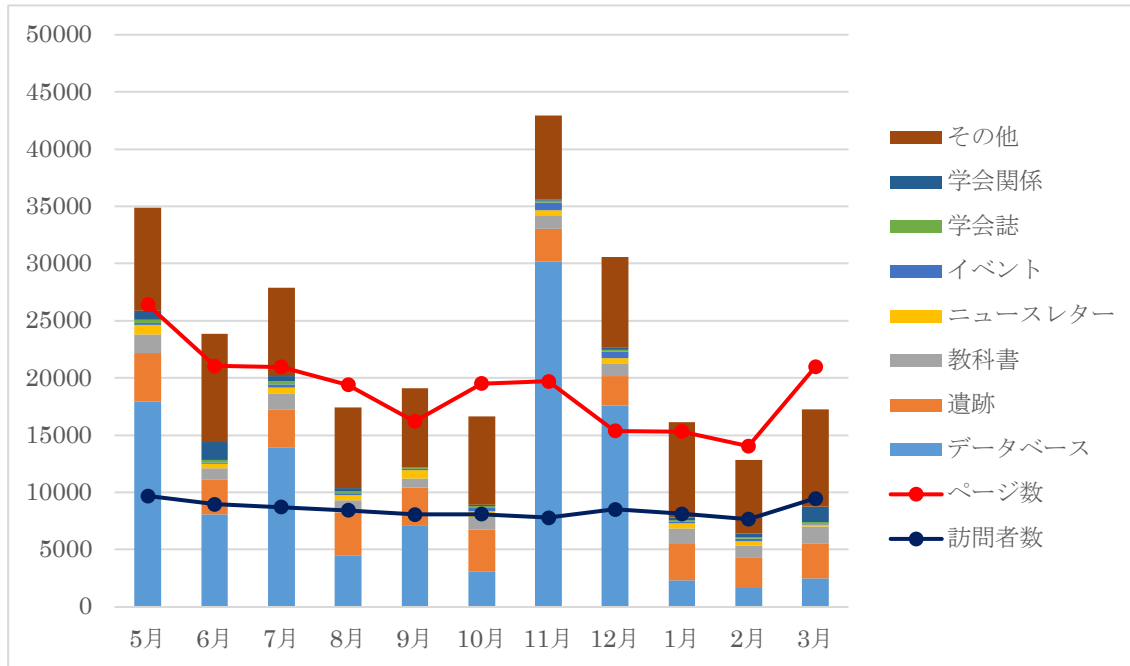
- 4月26日 『ニュースレター』第41号の掲載
- 7月4日 2018年度日本旧石器学会第1回普及講演会「アメリカとフランスの旧石器研究を比較して考える」（8月3日）の掲載
- 8月17日 「2019年度役員体制」、「日本旧石器学会賞規定」、「旧石器研究投稿規程・執筆要項」の改訂版の掲載
- 8月18日 『旧石器研究』第15号（2019年5月刊行）目次の掲載
- 8月23日 「International Symposium Hominin behaviour during the Middle to Late Pleistocene transition: Insights from the Lingjing site (Xuchang, Henan, China) in a global perspective」（中国山東省青島市山東大学青島キャンパス、2020年4月9～10日）の掲載
- 8月23日 沖縄県立博物館・美術館「沖縄県南城市サキタリ洞遺跡の発掘調査について（お知らせ）」（8月27日～9月27日）の掲載
- 9月7日 『ニュースレター』第42号の掲載
- 9月19日 「International Symposium on Paleoanthropology in Commemoration of the 90th Anniversary of the Discovery of the First Skullcap of Peking Man」（中国北京市、12月2～4日）の掲載
- 10月10日 浅間縄文ミュージアム・ハヶ岳旧石器研究グループ・佐久考古学会「Hunting：狩猟相解明のためのアプローチ」（11月16～17日）の掲載
- 11月7日 「第33回東北日本の旧石器文化を語る会（秋田大会）」（12月21日～22日）の掲載
- 11月20日 「四国旧石器遺跡マッピングパーティー」（12月7日）開催要項の掲載
- 12月7日 Asian Paleolithic Association 「The 10th Meeting of the Asian Paleolithic Association, China」（中国河南省鄭州市、2020年8月22～28日）のファーストサーキュラーの掲載
- 12月23日 『ニュースレター』第43号の掲載
- 2月26日 「2020年度日本旧石器学会総会研究発表の募集について（お願い）」（札幌国際大学、2020年6月14～15日）の掲載
- 3月20日 「2020年度日本旧石器学会シンポジウム 北海道の旧石器時代と集団」（札幌国際大学、2020年6月14～15日）告知の掲載
- 4月15日 「日本旧石器学会第18回総会・研究発表・シンポジウム延期のお知らせ」（札幌国際大学、2020年6月14～15日）の掲載
- 4月18日 「データベース 日本列島の旧石器時代遺跡」の「例言」、「利用規約」等の掲載

②「旧石器時代の教科書」の追加（予定）

- 「5. 日本列島にはいつ人類が来たの？」を追加する予定（6月中）。

③その他 HP 関連

コンテンツの内容や構成等の充実・改善を図るために、HP における閲覧ページの内容と数、訪問者数を集計した。



2019年度HPアクセスデータ (ヒット数はTop30を集計) *4月はデータなし

■2020年度活動計画

日本旧石器学会や旧石器時代の周知 PR のために、普及講演会の開催、HP の更新や魅力あるコンテンツの作成を柱に、以下のとおり活動を行う。

1. 普及講演会を開催し、学会や旧石器時代の周知・PR に努める。
東日本と西日本でそれぞれ1回ずつ開催予定
*開催の有無・時期等については、新型コロナウイルス感染拡大措置の状況をみながら検討する。
2. 旧石器時代の理解を促進するための「日本列島の旧石器時代遺跡」などのコンテンツを追加する。
①掲載遺跡が少ない北陸・東海、九州を中心に10遺跡前後を構想している。
*複数年計画で47都道府県の旧石器時代遺跡を網羅する予定
②「旧石器時代の教科書」についても、コンテンツの追加を検討する。
3. HP へのアクセスを増やすための方策を検討する。
①閲覧・ダウンロード数の確認と分析をあらためて実施する。
②データベース委員会との連携
・遺跡データベース改訂に向けて、引き続き総務委員会とも連携して協力する。
- 4・その他 旧石器時代関連の周知に関する共催・後援・協力事業を実施する。

以上

(広報委員会 立木宏明 尾田識好 沢田 敦)

1.11. 日本旧石器学会賞選考結果報告

日本旧石器学会賞選考委員会
委員長 鈴木 美保

2019年度の日本旧石器学会賞選考委員会を2020年4月12日（日）に開催し、5月23日（土）の役員会において選考結果を報告し承認された。以下の通り選考結果を報告する。

1. 2019年度学会賞受賞者

保坂 康夫会員（身延山大学、山梨学院大学）

選考理由

学会賞は、旧石器研究の発展に貢献し優れた業績をあげた会員に授与する。学会員からの推薦に基づき、当委員会は保坂康夫会員を2019年度の学会賞受賞候補者として選考した。

保坂会員は1980年代以来、40年近くにわたって“礫群”に関する研究に取り組み、2012年には『日本旧石器時代の礫群をめぐる総合的研究』を上梓した。本著書では列島全体の膨大な礫群資料の悉皆的な調査に基づき、礫群の多様性や地域性を俯瞰するという基礎的な研究に中心を置きながら、その分析には実験考古学的な視点も取り入れて、礫群のより具体的な用途論や使用過程論に言及、さらに社会的役割の議論へと高めている。本書はまさに学史上初の礫群の総合的研究書といえるであろう。さらに、「旧石器研究」15（2019）には『礫群をめぐる砂川期の移動生活』を発表し、礫群をめぐる行動論的な研究を展開している。石器以外の出土遺物の極めて稀な列島の旧石器時代遺跡において、石器以外の過去の活動の痕跡である礫群研究の重要性に早くから注目し、基礎的な研究から列島の後期旧石器社会像に迫ろうとする保坂会員の考古学的な業績は学会賞に相応しいと考える。

2. 2019年度論文賞受賞者

高倉 純会員（北海道大学）

選考理由

論文賞は、会誌「旧石器研究」に優れた業績を発表した会員に授与する。当委員会は高倉 純会員を2019年度の論文賞受賞候補者として選考した。

高倉会員は「旧石器研究」14（2018）に『長崎県佐世保市福井洞窟出土石器群における剥離方法の同定—2012～2013年発掘資料を対象として—』、15（2019）に『長野県上水内郡信濃町大久保南遺跡出土石器群における剥離方法の同定』を発表している。両論文はともに石器群における剥片剥離方法の同定を通して、石器群の文化的位置づけを企図した論文であるが、その背景には実験考古学的手法を用いて自ら

が開発したフラクチャーウィングの角度計測による剥離方法の同定法がある。高倉会員は 2004 年（「第四紀研究」43(1)）にこの同定法を発表して以来、北海道の遺跡出土石器群の剥離方法の同定を中心に様々な石器群への適用を実践してきた。『旧石器研究』誌上に発表された上記 2 本の論文もそれぞれ九州の細石刃石器群と後期旧石器時代前半期石器群に適応したもので、前者は押圧剥離技法と細石刃石器群、後者は石刃技法と後期旧石器時代初頭というどちらも旧石器時代の重要なテーマに切り込むものである。さらに両論文で示された結論はこれまでの一連の研究成果の上でより意味を持つ研究として評価されるものであり、同時に今後の発展も期待される研究である。以上のような業績は論文賞に相応しいと考える。

2.1. 2020年度 日本旧石器学会役員会

会 長：佐藤宏之

副会長：諏訪間順

幹 事： 赤井文人 出穂雅実 沖野 実 尾田識好 越知睦和 小野章太郎 加藤 学
門脇誠二 国武貞克 熊谷亮介 小原俊行 沢田 敦 下岡順直 高倉 純
高屋敷飛鳥 平澤 悠 森先一貴 山崎真治 山田和史 渡辺丈彦

委員会名簿

総務委員会： * 渡辺丈彦 国武貞克 森先一貴 佐野勝宏
会計委員会： * 小野章太郎 越知睦和 沖 憲明
会誌委員会： * 門脇誠二 小原俊行 沢田 敦 下岡順直
ニュースレター委員会： * 山崎真治 赤井文人 山田和史
渉外委員会： * 出穂雅実 平澤 悠 阿子島 香
研究企画委員会： * 高倉 純 尾田識好 高屋敷飛鳥 亀田直美 中沢祐一 藤田祐樹
データベース委員会： * 加藤 学 沖野 実 小原俊行 熊谷亮介 野口 敦 光石鳴巳
入会審査委員会： * 諏訪間順 沢田 敦
広報委員会： * 尾田識好 沖野 実

*は委員長

は委嘱委員

会計監査委員： 佐久間光平 鹿又喜隆

日本旧石器学会賞選考委員： * 佐野勝宏 佐藤宏之 諏訪間順 高倉 純 渡辺丈彦

選挙管理委員会； * 伊藤 健 西井幸雄 市田直一郎

アジア旧石器協会： 佐藤宏之（副会長）

出穂雅実 平澤 悠 （執行委員）

2.2. 2020 年度日本旧石器学会総会書面表決について

日本旧石器学会総会は、例年 6 月に開いているが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から通常総会は中止とした。そこで、2020 年 5 月 23 日に開いた役員会において、2020 年度の総会は書面表決とすることとその方法について審議した。

会員全員に総会書面表決に関する案内を郵送し（登録者には学会 ML でも案内する）、学会ウェブサイトでも総会資料を確認の上、表決書あるいは表決フォームにて総会報告・審議事項に関して承認か否認かご回答頂くこととした。回答の期限は、2020 年 6 月 25 日（木）とした。

また、書面表決は、総会の成立基準同様、全会員の 5 分の 1 以上の提出を持って成立とし、承認が過半数を超えた場合に可決とすることとした。

2.3. 会費振込期限の猶予措置について

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため発出された緊急事態宣言は解除されましたが(2020年5月26日現在)、今後の状況では再宣言の可能性も排除されておりません。このような状況を踏えますと、会費の振込が困難となる会員が一定数生じる可能性が懸念されます。

そこで会費振込期限の猶予について役員会にて審議し、次の措置を設けることといたしました。

猶予措置：

「会誌等学会発送物の停止」や「会員権利の停止(退会)」の年限について、会費振込の猶予を申請した会員に1年間の猶予を認める。

方法：

猶予措置を希望する会員は、日本旧石器学会事務局宛(jimu@palaeolithic.jp)にメールで申請ください。申請の書式は特に定めません。事務局から役員会への通知を経て猶予措置をとります。猶予期間における対応は「参考資料：会費振込期限の猶予期間と会誌送付・退会処理の対応」を参照ください。

参考資料：会費振込期限の猶予期間と会誌送付・退会処理の対応

滞納年度と滞納のパターン：従来への対応

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
A	未納	未納	未納 (停止)	未納 (停止)	未納 (退会)					
B	○	未納	未納	未納 (停止)	未納 (停止)	未納 (退会)				
C	○	○	未納	未納	未納 (停止)	未納 (停止)	未納 (退会)			
D	○	○	○	未納	未納	未納 (停止)	未納 (停止)	未納 (退会)		
E	○	○	○	○	未納	未納	未納 (停止)	未納 (停止)	未納 (退会)	

滞納年度と滞納のパターン：猶予措置を設ける場合の対応 (変更箇所)

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
A	未納	未納	未納 (停止)	未納 (停止)	猶予申請 (停止)	未納 (退会)				
B	○	未納	未納	未納 (停止)	猶予申請 (停止)	未納 (停止)	未納 (退会)			
C	○	○	未納	未納	猶予申請 (停止)	未納 (停止)	未納 (停止)	未納 (退会)		
D	○	○	○	未納	猶予申請	未納 (送付)	未納 (停止)	未納 (停止)	未納 (退会)	
E	○	○	○	○	猶予申請	未納	未納 (送付)	未納 (停止)	未納 (停止)	未納 (退会)

2.4. 研究グループの運営費交付金の繰越制度の導入について

新型コロナウイルス感染拡大により、研究グループの運営費交付金が予定通り執行できない状況が生じうる事が予想される。そこで、日本旧石器学会においても運営費交付金の繰越制度を導入することを役員会において審議した。審議の結果、日本旧石器学会研究グループ規定に繰越制度に関する条項を加え（グループ規定 12）、今後はやむを得ない事由による計画の変更等に伴い、当該年度中に運営費交付金を使用することができない場合は、事務局を通じて役員会の承認を得た上で、その残金を翌年度に繰り越すことができることとした。なお、繰越事由は、日本学術振興会の科学研究費補助金で認められている要件を満たすこととする。

日本旧石器学会研究グループ規定

12. やむを得ない事由による計画の変更等に伴い、当該年度中に運営費交付金を使用することができない場合は、事務局を通じて役員会の承認を得た上で、その残金を翌年度に繰り越すことができる。繰越事由は、日本学術振興会の科学研究費補助金で認められている要件を満たすこととする。